

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成25年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野(3/12)

	評価区分(*1)	総合評価 (IとIIの平均値にIIIを加味)	I 目標に向けた取組の進捗に関する評価	II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	III 現地調査時の指摘事項及び対応状況等(*2)	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
健幸長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ総合特区(見附市等)	正	A 4.6	B 4.1 進捗度 ・総合評価指標としての「健幸度」の開発 105% ・地域住民における1日の歩行数(1日平均9,000歩達成者の人数比率の向上) 116% ・日常の主移動手段(徒歩、公共交通機関等)利用者の人数比率の向上 106% 等	B 4.0 規制の特例等 ・ライジングボラード(自動昇降式車止)による車両の通行制限 ・連節バス(BRT)の導入と拡大に向けた手続の簡素化 等 財政支援等 ・自治体共用型健康クラウドの整備 等	+0.60	<p>・全体として順調に進展している。取組みの進捗、方向性に大きな問題はなく、既に一定の成果が得られていることは評価できる。</p> <p>・自治体を取り組むべき重要な政策(※1)であり、単なるインフラ整備にとどまらず、住民の健康度アップや、医療介護費削減につながることを示せば素晴らしい成果となると思われる。</p> <p>・一方で、目標達成に向けては地域間(※2)のばらつきが大きい。進捗の良い自治体が全体を引き上げる結果、進捗の芳しくない自治体が埋没してしまう可能性がある。ネットワークのメリットを活かし、すべての地域に有効な方策の実施が望まれる。 また、7つの自治体のそれぞれの取組みを統合化し、汎用性のある取組みとしていくことも必要である。</p> <p>・数値目標が相互に関連するものが多く、独立した変数となっていないため、可能な限り、独立した変数に変えることが望ましい。</p> <p>※1: 本特区は、自律的に「歩く」を基本とする「健幸」なまちを構築することにより、健康づくりの無関心層を含む住民の行動変容を促し、高齢化・人口減少が進んでも持続可能な先進予防型社会の形成を目指している。</p> <p>※2: 本特区は、新潟県見附市、新潟市、三条市、福島県伊達市、岐阜県岐阜市、大阪府高石市、兵庫県豊岡市の7市及び筑波大学等により構成されている。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。

*2)「IIIについては、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。